

デンタルスタッフ・ミライ・プロジェクト ニュース vol.44

中医協(中央社会保険医療協議会)

資料にみる

歯科医療の現状

昨年4月の診療報酬改定に向けた議論が中医協(中央社会保険医療協議会)で始まりました。中医協に報告された歯科医療の現状に関する資料から主なものをご紹介します。

1) 抜歯の原因は、①歯周病、②う蝕、③破折

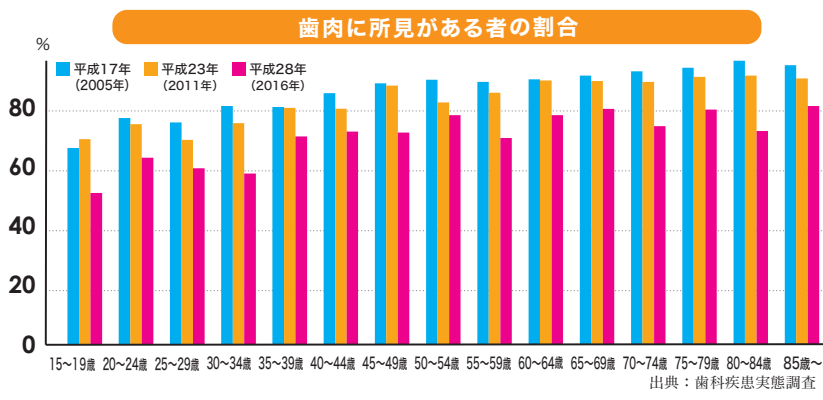
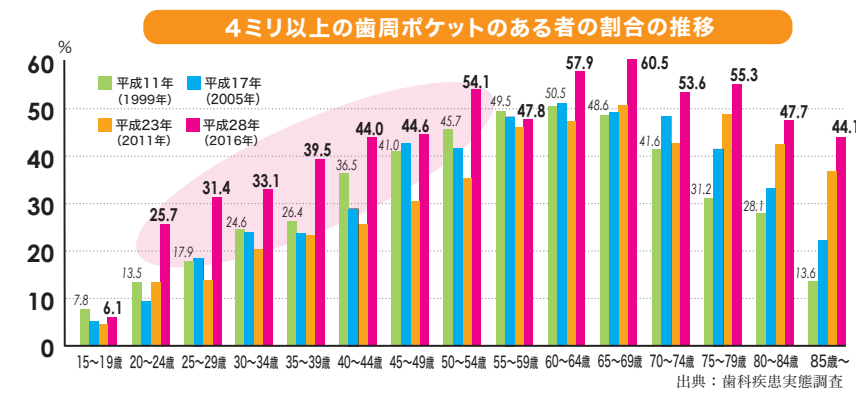
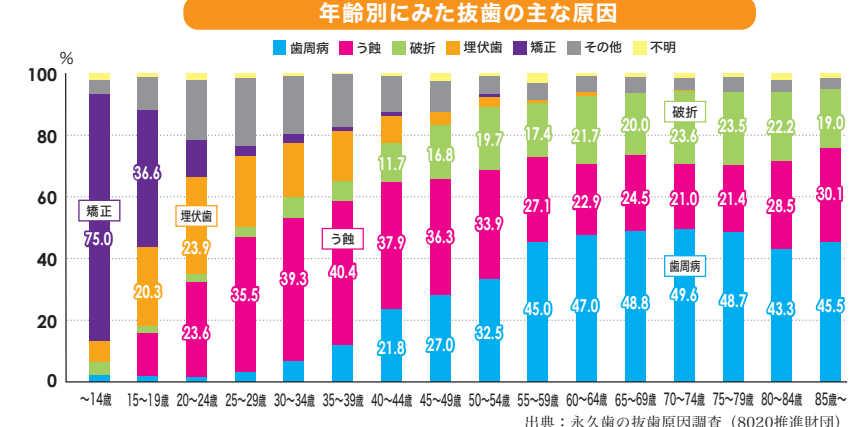
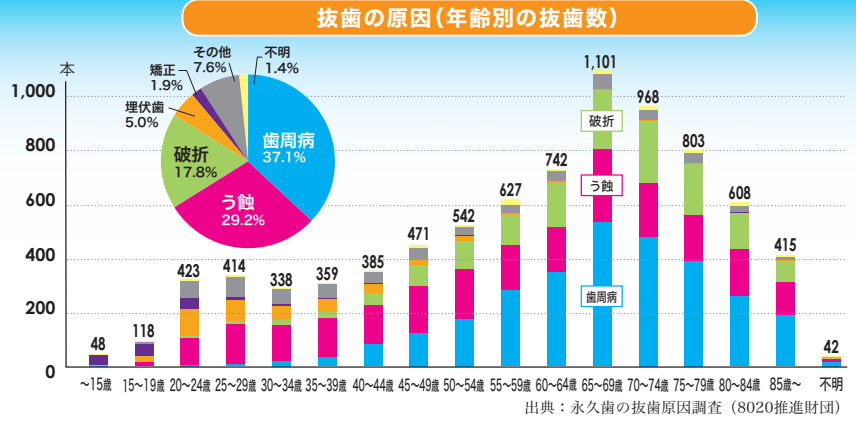
抜歯の主な原因は、①歯周病(37.1%)、②う蝕(29.2%)、③破折(17.8%)。30~50歳ではう蝕、50代以降は歯周病による抜歯が多い。抜歯は65~69歳で最も多く、抜歯全体の45%は60~80歳に行われています。

2) 成人を中心に歯周病の者の割合は増加

成人の約7割が歯周病に罹患しています。歯肉に所見のある者の割合は減少していますが、成人を中心に4ミリ以上の歯周ポケットのある者の割合は増加しています。

3) 全ての年齢で20歯以上有する者の割合は増加

全ての年齢で20歯以上有する者の割合は増加しており、特に高齢者では65~69歳で73.0%、70~74歳で63.4%、75~79歳で56.1%、80~84歳で44.2%、85歳以上で25.7%となっています。(2016年歯科疾患実態調査)

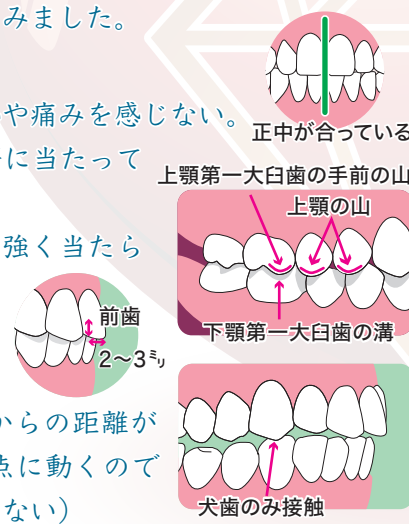


DH Pro.セミナー講師
山崎瑞穂先生による
コラムのコーナー
Mizuho Yamasaki

歯科衛生士は歯肉の炎症に注目してしまいがちですが、咬合状態も把握しなければ真のメンテナンス・SPTはあり得ません。抜歯の原因3位の破折は近年増加傾向にあります。今回は歯科衛生士が行うメンテナンス時にチェックしておきたい項目として、噛みあわせについてまとめてみました。

理想的な噛みあわせ

- ・噛みあわせた時に顎関節に違和感や痛みを感じない。
- ・正中が合っている。両奥歯が均等に当たってしっかり噛める。
- ・軽く噛んだ時、上前歯が下前歯に強く当たらず上前歯が下前歯より2~3ミリ前に出ていて2~3ミリ覆っている。
- ・犬歯誘導になっている(犬歯は歯根が長く非常に丈夫で顎関節からの距離が離れている。下顎は顎関節を支点に動くので犬歯の方が奥歯より力の負担が少ない)
- ・バーディカルストップが確立し、アンテリアガイダンスが確保されている。



噛みあわせの状態もチェックしよう

不正咬合(ふせいこうごう)の種類

不正咬合の種類とその説明。上顎前突、下顎前突、開咬(オープンバイト)、過蓋咬合(ディープバイト)の4種類を示しています。

- 上顎前突**: 口が閉じにくい口呼吸になりやすく上顎前歯の脱灰や歯肉炎にもなりやすい。正常な上顎歯列弓に対して下顎歯列弓が遠心に咬合するものや上顎前歯の唇側転位、下顎前歯の舌側転位、上顎骨の過剰な発育や下顎骨の成長不足の場合もある。
- 下顎前突**: 下顎前歯が上顎前歯により前方へ押されるため、前歯で食物を噛み切れない。臼歯の負担が大きく、早期の喪失や動揺、歯肉退縮を引き起こす場合も。下顎歯列弓が上顎歯列弓に対して正常よりも近くに咬合するもの。片側性の場合にはsubdivision。
- 開咬(オープンバイト)**: 舌の癖や指しゃぶり、口呼吸等が原因ともいわれる。咀嚼障害や発音障害などの機能的異常が生じることも。奥歯しか噛みあっていないため咬み砕く能力が低く、消化不良や胃腸への負担が増加することもある。
- 過蓋咬合(ディープバイト)**: 歯肉を傷つけやすく口内炎にもなりやすい。歯で歯を押してしまうことが多く、更なる歯列の乱れや不正咬合を引き起こすこともある。下顎の動きが制限される可能性が高く、その結果、口腔周囲の発育に影響が出ると考えられる。